

労働の社会化とは

資本主義的生産による労働の社会化とは、けっして、人々が一つの場所で労働するというところにあるのではなく（これは過程の一小部分にすぎない）、資本の集積にともなって、社会的労働が専門化し、各産業部門における資本家の数が減少し、独立の産業部門の数が増大するという、——数多ぐの分散的な生産過程が一つの社会的生産過程に融合するという、にある。

第一巻 「人民の友」とはなにか P173

メモ

資本主義的生産は労働を社会化するが、同時に、労働の疎外をもたらす。つまり、①資本主義社会においては、人間の中の社会関係が物の間の関係という形をとり、人間が物を支配するのではなく、逆に物によって人間が支配されるということ。②資本・賃労働関係が成立すると、売られた労働力が他人のものとなり、その結果、自分の労働の成果が自分のものにならずに他人の所有になる。自分たちの過去の労働が資本として労働者に対立し、労働者を支配するようになる。